
2021年度

ボランティア活動報告集

富山短期大学 学生部 ボランティア支援センター

ごあいさつ

コロナ禍 2 年目の 2021 年度、ボランティア活動が継続できるかどうか心配はありましたが、今年もこうして、ボランティア活動報告集を作成することができました。

これもひとえに地域の皆様、企業、福祉法人等の皆様からのご依頼と、感染症対策等を十分に行っていただき活動ができた賜物です。多くの皆様のご協力とご支援いただきましたこと、この場をお借りして、御礼申し上げます。

さて、ボランティア活動は、学内の講義や演習などの授業では得ることができない貴重な経験と学びができる機会であり、本学として非常に重要視しております。具体的には、本学の教育は、知性と教養だけではなく、人間性の向上を大きな教育の柱ととらえています。それらは教えられて身につくものではなく、経験や実践を通して育つものであると考えております。

近年、入学してすぐに、「短大に入ったらボランティア活動をしたと思っていました」や「高校の時に富山短期大学のボランティア活動を新聞で見て憧れていました」というような嬉しい声を聞くことができました。これまでの活動が継続し、つながり、紡いでいく過程であることを感じております。

授業で学んだことを生かしたり、実践したりすることができるボランティア活動や新たな分野や他分野に触れることができる活動、地域課題に気づくことができる活動等、豊富な活動の中から学生たちは、Web ボランティア手帳のシステムを活用し、自己選択、自己決定し参加しております。

活動に参加した学生は、ボランティア活動を通して、主体的に活動すること、さまざまな人とつながること、異なった価値観や生き方との出会い、人から感謝されたり喜んだりされるうれしさや充実感など、多くの学びがあったと満足気に話してくれます。その経験を今後の専門的学びや就職後、社会人として、地域に還元してほしいと願っております。

ここに、今年度の活動内容や学生の気づき・学びの報告を記録して報告集としてまとめました。ボランティア活動により、学生は本当にかげがえのない経験と学びを得たことを報告させていただきます。今後の活動依頼等の参考としていただき、今後も引き続き富山短期大学をよろしくお願いたします。地域と共に歩んでいくことのできるボランティアセンターをめざします。

末筆ではございますが、ボランティア活動への参加を応援して下さった地域の皆様、企業、福祉法人等の皆様、学生の活動の場を提供して下さった多くの皆様に、心より感謝申し上げます。

2022 年 3 月
富山短期大学
ボランティア支援センター
センター長 明柴聰史

目 次

1. ごあいさつ	ボランティア支援センター長 明柴 聰史	--- 1
2. 報告 1 ウィズコロナでの活動を通して	専攻科食物栄養専攻 1年 神田 妙野	--- 3
3. 報告 2 継続した学びを次のステップへ	幼児教育学科 2年 竹腰 菜々美	--- 5
4. 報告 3 ボランティアを通じて	食物栄養学科 2年 野坂 怜菜	--- 7
5. 報告 4 ボランティア活動を通して	幼児教育学科 1年 川原 千歩	--- 9
6. 報告 5 ボランティアから得た自身の成長	経営情報学科 1年 金山 奈央	--- 11
7. 報告 6 ボランティアの魅力	経営情報学科 1年 水口 ひより	--- 13
8. 報告 7 介護の日フェスティバルを終えて	健康福祉学科 1年 高柳 菜月	--- 15
9. 2021年度 ボランティア活動報告集を読んで	健康福祉学科 教授 関 好博	--- 17
10. 2021年度 学生のボランティア活動実績	ボランティア支援センター	--- 18
11. 編集後記		

活動目的・背景

今年度のボランティア活動は、食物栄養学科在籍時よりも更なる学びを深めるために、積極的にボランティアに参加しました。具体的な活動の内容としては、短期の活動だけでなく、長期間の活動にも参加しました。過去の活動では1日単位での活動が多く、活動時の反省や提案をその後の活動に生かすことが出来ていませんでした。今年度は、約半年間にわたる活動に参加することで、継続的な学びにつながる良い機会となりました。更に、自分の中で「この活動に参加してみたい」「この活動って面白そう」という好奇心を忘れずに、また謙虚な気持ちで参加することにも重点を置きながら活動しました。

活動実績・活動内容

※2022年1月5日時点

年月日	活動内容
2021年4月16日	富山グラウジーズ 富山市総合体育館
2021年5月9日	子ども子育て応援マルシェin太閤山ランド (主催：ママスキーパーティ2021)
2021年5月4日	青空古本市の手伝い (富山ユネスコ協会)
2021年5月30日	マリエ献血ルーム受付対応
2021年6月13日	【土・日・祝】立山子育て支援センター 来館した児童等の見守り
2021年6月27日	
2021年7月22日	ゴミ拾い選手権大会 (まるごと TOYAMA)
2021年7月25日	豊田子ども食堂お弁当配布のお手伝い
2021年11月3日	アランマーレホームゲームでのオレンジリボン運動
2021年11月7日	富山マラソン2021ランナーサービス
2021年11月2日	子ども夢の商店街実行委員会子どもサポーター (一般社団法人ユメ・フルサト)
2021年12月4日	「学生によるオレンジリボン運動」子育て支援活動
2021年12月18日	
2021年12月15日	富山グラウジーズ 富山市総合体育館
2021年7～12月	7～12月 南砺市子どもの権利条例子ども部会ワーキング (リボンfromとやま)
2021年10月5日 ～ 2021年2月15日	コロナ禍における女性のつながりサポート事業「ポブラプロジェクト」

※ポブラプロジェクト：富山県、(公財) 富山県女性財団業務委託事業

学んだこと・成果

現在、新型コロナウイルス感染症が蔓延しており、難をかかえている人が多いことが社会の現状です。しかし、ボランティア活動に参加してみると、活動先の皆様は感染症対策を徹底しながら、やる気に満ち溢れている方々が多い印象を受けました。難しい状況に置かれた中、各々が一歩でも前に進もうとしている姿を見て、自分も力をいただくことができました。大学入学前は感染症流行を言い訳にして、消極的な行動が多かったですが、今年度はできる範囲で活動を続けることができました。「継続的な学び」を少しでも深めることが出来たことが、今年度の成果だと考えられます。

また、新型コロナウイルス感染症が流行している今だからこそ起きる新たな社会問題についても関わる事ができました。主に挙げられるものとして、「ポブラプロジェクト」の活動です。

「生理の貧困」という言葉を基盤として活動していますが、この活動に参加するまでは無知の問題でした。今後も継続的に困っている方々へ活動していきたいと思います。

さらに学科の垣根を超えて活動したものとして、「南砺市子どもの権利条例策定委員会 子ども部会サポーター」があります。富山短期大学は非常に学科同士の関わりが希薄であり、専門分野外の方とは関わりが少ないと思います。特に専攻科は、ほぼ無いと言えます。しかし、この活動では幼児教育学科の皆さんと活動しましたが、多くの学びを得ることができました。例えば、人前で何かを発表する時、幼児教育学科の学生は非常に明るく、ハキハキと話される方が多く、感銘を受けました。自分とは違う環境下で学習してきたからこそ、他学生の姿勢から得るものは多いと感じました。今後も学科内だけではなく、他学科の方々と交流していきたいです。

提案・後輩へアドバイス

後輩の皆さんへアドバイスしたいことは、「挑戦することを恐れない」ということです。2年間の大学生活はあっという間に過ぎていきます。ささいなことでも構わないので、少しでも興味を抱いたらすぐ行動しましょう。失敗するリスクや不安を想定し続け、何も行動しないなんて非常にもったいないです。また失うものは何ともありません、いくらでも失敗しましょう。

また、活動に参加する場合は、積極的に活動先の方々とコミュニケーションを取ると良いと思います。次第に初対面の方と話すことに抵抗がなくなると思います。活動中、時間に余裕があれば、他の参加者の方がどのような人生経験を送ってきているのか聞いてみると更に面白いです。自分の専門外の分野でも話を聞いてみると、意外と関連があり、将来の視野が大きく開けてきます。自分が将来、より良い社会生活を送るためにも、ぜひボランティア活動を有意義に活用してみてください。

今後に向けて

今後の活動については、時間に余裕のある時に引き続き参加したいと考えています。参加の際には、何度もお世話になっている活動先だけではなく、まだ参加したことの無い活動先にも参加したいです。限られた時間の中で多くの経験を積み、社会貢献を続けていきたいと思えます。参加する際には、今年度はスケジュール調整が上手くいかない日があったので、そちらも気を付けていきたいです。



ポプラプロジェクト



子ども子育て応援マルシェ

講 評

学科での2年間のボランティア活動に引き続き、専攻科進学後も可能な限り、積極的にボランティアに参加する姿勢が素晴らしいです。ボランティア活動を継続しているからこそ分かってきたこと、感じるがあると思いますので、その学びを忘れず、同級生や後輩にも伝えていってください。今後の活躍も楽しみにしています。

(専攻科食物栄養専攻 講師 中根 一恵)

活動目的・背景

今年度は、昨年度同様に、自分が興味や関心をもつ活動に積極的に取り組もうと思い参加してきました。目標として、「人との繋がりを大切にしたい」という思いをもち、子どもや保護者の方など、他世代の方と活動を通して交流しました。また、昨年の学びや経験を生かし、自分自身が主体となって活動を企画し実践することで、新たな学びや人との出会いに繋がると思い取り組みました。

活動実績・活動内容

ボランティア名	内 容
はっぴーママ表紙オーディション 子どもたちの撮影の付き添い等	撮影に来た子どもたちの笑顔を引き出しつつ、安全の確保、受付業務
子ども子育て応援マルシェ in 太閤山ランド (主催：ママスキーパーティー 2021)	子どもと子育て家庭に向けたフォトブース出展
放課後等デイサービスに通う子どもたちと運動会	放課後等デイサービスに通う子どもたちと Zoom を通して遊ぶ
カターレ富山&あすなろ小児歯科医院 特別イベント	プレイパーク内アクティビティ・縁日、チョークでお絵かき運営の補助
南砺市子どもの権利条例策定委員会 子ども部会サポーター	南砺市の子どもの権利条例の策定に向けて、子ども部会の企画・運営
オレンジリボン運動×クリスマス	オレンジリボン運動で集まった募金で乳児院の子どもたちにプレゼントを贈る



子ども子育て応援マルシェ



南砺市子どもの権利条例策定
子ども部会



オレンジリボン運動×クリスマス

学んだこと・成果

コロナ禍ということでオンラインでの活動や、制限のある活動といったこれまでにない活動を経験することができました。対面での活動が当たり前だと思っていましたが、オンラインといった新たな活動の可能性を感じることができました。参加者だけでなく、同じボランティア学生、スタッフの方々と、人との繋がり的重要性を改めて感じるすることができました。昨年までは、参加する側が多かったですが、今年は活動やブースの内容を考え企画する側を経験してきました。どの活動も対象（子どもや保護者の方）が喜んでくれるのか、楽しんでくれるのかを考えることが大切だと学びました。障がいの有無に関わらず、“誰もが楽しめる活動”は何か考えることが難しかったです。みんなで一緒に取り組むことができ、参加できるような活動を友達や先生方と話し合い、形にしてきました。実際に、子どもたちが楽しむ姿や喜ぶ姿を見て大きなやりがいを感じました。また、保護者の方との関わりを通して、自分の学びの目標を見つけることができました。様々なボランティア活動に参加したことが、自分の成長にしっかり繋がっていると実感しました。

提案・後輩へアドバイス

やってみたい、面白そうだなと思う活動にどんどん挑戦してみましょ。ボランティア活動は、多くのことを学び、自分自身が成長できる場です。学生だから経験できる特権だと思います。そこには、楽しさや面白さ、新たな発見があると思います。普段関わることのない他世代の方との交流や、初めての経験など、きっと自分の学びや将来に繋がっていきます。一人で参加するのが不安だなと感じる方は、ぜひ友達も巻き込んで参加してみましょ。WEBのボランティア手帳を定期的に見てみてください。

今後に向けて

短大2年間で、多くのボランティア活動に参加しました。そこでの出会いや感じたこと、得たことが、私の将来の進路選択に大きく影響しました。自分で決めた道を、目標をしっかりもって学び続けていきたいです。活動を通して、成長したことはきっと自分の強みになっていると思います。今後も機会を見つけ、継続してボランティア活動に取り組み、強みを伸ばしていきたいです。

講 評

参加が制限される中での活動は、創造性と主体性が大いに刺激されて学校生活での授業では得ることができない学びになったと思います。学生の時しかできないこの活動を通して学べたことを将来に生かして、将来の仕事や学びにつなげてほしいと思います。特に、人との出会いは大きな財産になると思いますので今後も大切にしてください。

(幼児教育学科 准教授 大森 宏一)

活動目的・背景

私が本学に入学してから、ボランティア活動報告集を書いたこの日まで、計8回様々な活動に参加させていただきました。この2年間新型コロナウイルス感染症により危機感を持った状況での活動ではありましたが、私が参加希望した活動をすべて取り組めたこと、友人も交えて活動できたことをとてもうれしく本当に恵まれていたと振り返ってみて思います。「深く考えすぎず、好きな時に取り組みたい。」そんな思いで最後の学生生活としてボランティア活動に積極的に参加しました。昨年と比べると、多くのボランティアを必要とする規模の大きい活動にも参加させていただき、とても実りのあるそんな時間だったと感ずることができました。

活動実績・活動内容

令和3年5月3日「マリエ献血ルーム」受付及び検温や消毒、6月27日「富山県民共生センターサンフォルテセミナー」来場された方への案内及びアンケートの回収、11月7日「富山マラソン2021」のフィニッシュランナーへの給水、12月16日「クリスマス会のお手伝い(学生会)」当日までの準備、10月5日～令和4年2月まで「ポプラプロジェクト」生理の貧困についての理解を得るための活動としてポスター作成と生理用品の設置・補充といった活動を行いました。

※ポプラプロジェクト：富山県、(公財)富山県女性財団業務委託事業



ポプラプロジェクト 衛生用品仕分け

学んだこと・成果

私はこの2年間、まだまだ数の少ない活動参加でありましたが、多くのことを学ぶことができました。まず初めてのボランティア「マリエ献血ルーム」では、はっきりとした声で来場者への対応を心掛けることや、話す相手にマスク越しでも自然な笑顔を忘れないことです。次に「富山マラソン2021」では、たくさんの学生・

一般ボランティアがいるからこそ成り立つこと、その中でリーダーを務めさせていただき、少人数での活動とはまた違った責任感を持つことができる活動でした。そして、今年度から始動した「ポプラプロジェクト」生理の貧困について自身でも無知なことが多く、マスメディアを通して得た知識や学生がアンケートに協力しその結果を通して自分なりに考えたこと、伝えたほうが良い内容をいかにわかりやすく見せるという工夫をする視点を学ぶことができました。



ポプラプロジェクト
ポスター作り



提案・後輩へアドバイス

2月に終了する予定の「ポプラプロジェクト」継続のために引き継ぐことを提案します。約半年この活動に参加させてもらい、半年で終わるのは惜しいと感じたからです。ただ問題なのは、私を含めて参加しているボランティアメンバーの半数が2年生であることです。そこで、サークルの勧誘のように、また学内でポプラプロジェクトの参加を募ることを提案したいです。学科ごとに一人でもいれば各館に設置してあ



ポプラプロジェクト 取材の様子

ることに対しての意見や状態を把握しやすいのではないかと思います。トイレに設置してあるポスターも学科ごとで、学科の特色にあったものと組み合わせても面白いのではないかと考えます。

また後輩には、今しかできない経験を積むことを伝えたいです。昨年度からコロナ禍であることに変わりはありません。しかし、徐々に活動の幅が広がったと感じられる瞬間もありました。私よりも多くのボランティア活動に参加している後輩もいると思います。一つ一つの経験を次の行動に生かせる、そんな有意義な時間にしてほしいと願っています。

今後に向けて

「富山マラソン 2021」に参加して、県内で一般のボランティア活動があることを知りました。SNSで県内のボランティア活動について調べてみてもいろいろと募集されていることが分かりました。学生としてのボランティア活動はこれで終わりです。しかし、卒業後も社会人としてボランティア活動に参加したいと考えています。学生でのボランティア活動は人助けや社会に出るための準備、自身のコミュニケーション力向上やどういった分野が自身に適当なのかを知るための行動でした。これからボランティア活動に参加するにあたり、学生の時に達成できなかった目標をもう一度見直しボランティア活動に取り組もうと思います。

講 評

コロナ禍で思うように行動をできなかったかもしれませんが、ボランティア活動を通して学んだ、他者への思いやり、責任感、自ら学び取り組む姿勢は、野坂さんの今後の人生に生きてくるものと思います。また、今後もボランティア活動に取り組み、継続していくことで学びや気づきを深めることができると思います。今後の活躍も期待しています。

(食物栄養学科 講師 中根 一恵)

活動目的・背景

これまでボランティアというと、中学、高校時代には募金活動やごみ拾いなどをしてきました。日頃からボランティアに参加したいという思いは持っていたにも関わらず、中々行動に移すことができずにいました。しかし、短大生活で友達が少しずつ増えていく中で、「ボランティアに行きたいね」といった話をしていました。「私も行きたい」「一緒に行こうよ！誘うね」などと周りの子も話に乗ってきてくれました。それから、私から誘ったり、友達から誘ってきてくれたりしたことで多くのボランティアに参加することができました。

活動実績・活動内容

日 時		活 動 内 容
2021 (令和3) 年	5月8日	子ども子育て応援マルシェ in 太閤山ランド
	7月17日	みどり野幼稚園こどもまつりの手伝い
	11月3日	アランマーレホームゲームでのオレンジリボン運動
	11月7日	富山マラソン 2021 ランナーサービス
	11月16日	「学生によるオレンジリボン運動」ブース設置の手伝い
	12月4日	「学生によるオレンジリボン運動」子育て支援活動
	12月21日	富山短期大学クリスマス会のお手伝い (学生会)
	12月24日	オレンジリボン運動×クリスマス
2022 (令和4) 年	1月9日	富山グラウジーズ 設営・試合運営補助
	1月13日	子どもたちへのお手紙×食材提供

学んだこと・成果

ボランティアは、その活動によって関わる年齢層、活動内容も違います。そのため、様々な活動に参加して、多くの刺激を得ることができます。レポートを書く中でその日にあったことの振り返りや問題点、改善点を書いていると、次のボランティアでも自然と「ここはこうしたほうがいいんじゃないか」、人と関わる時にも「ここではこう声をかけてみよう」などと自分の中で少しずつ周りを見たり、意見を持ったりする力がついてきているのではないかと思います。また、ボランティアの中で参加者の方から「頑張ってるね」「寒いのにありがとう」などと反対に元気づけられることがありました。そこで人の温かさを感じ、この優しさを他の人にも繋いでいこうと思いました。また、ボランティアでは予期せぬことが起こったり、その日の天気によっても対応が変わったりするため、判断力や対応力の大切さを改めて感じました。



オレンジリボン運動 アランマーレ富山選手と

提案・後輩へアドバイス

ボランティアに参加する理由は様々です。私の場合、以前からボランティアに興味があり参加したいという思いと、勉強ができない分たくさんのボランティアに参加して色々な体験をして力を付けたいという思いがありました。「友達に誘われたから参加した。」「とりあえず参加してみた。」などどんな理由であれ、ボランティアに参加していることに意味があります。自分は何の役にも立たないと思っても役に立てることもたくさんあります。自分が手伝うばかりではなく、参加者の方から温かい言葉をかけてもらうこともたくさんあります。少しでも迷ったらとりあえず参加してみてください。私も友達に誘ってもらったことが多かったのですが、回数を重ね経験を積んでいくことで何か得られるものはきっとあります。自分でも知らないうちに力がついたり新しい発見があったりします。短大生活は思っているよりも時間が過ぎるのが早いので何でも挑戦してみてください。

今後に向けて

周りの友達を誘ってもっと色々なボランティアに参加していきたいです。その中で自分には何ができるのか考えたり積極的に意見を出したり人を引っ張っていけるような力を身に付けたいです。私は、まだまだ人に頼ってしまうことが多いため、自分で考え判断、対応して動けるような人を目指して経験を積んでいきたいと思っています。自分の苦手なところを克服していくためにも多くの経験を積んで少しでも周りの人に追いつけるように Web ボランティア手帳を活用して参加していきたいです。



富山県立乳児院へクリスマスプレゼントを贈るため訪問

講 評

「学生によるオレンジリボン運動」の子育て支援など、学科での学びを生かした活動をはじめ、幅広いジャンルの活動に友人と誘い合って積極的に参加して、経験値を高めているようですね。また、活動後には毎回欠かさず、Web ボランティア手帳のレポートに気づきや学び、課題や反省点を書き込み、省察を深めて次につなげていて素晴らしいです。今後も、活動をとおして様々な人と出会い、人間力を向上させられること期待しています。

(幼児教育学科 准教授 難波 純子)

活動目的・背景

私は、高校時代まであまりボランティアに参加したことがありませんでした。そんな私がボランティアに参加し始めた理由の一つとして、誰かを手助けすることを学生時代過ごす中で本格的にやってみたいからということがあります。元から手助けをするということは好きだったのですが、それを実行する機会を自分から得ようとはしていませんでした。その第一歩を踏み出すことで新たな成長に繋がるのかなと考えていました。

活動実績・活動内容

◆キャンパス・グリーン・ボランティア

このボランティア活動は学校内の花壇の手入れと植物を植えることが主な活動です。一人ですのではなく他の学生・先生方と協力して未来のために取り組んでいます。

◆豊田こども食堂お弁当配布のお手伝い

このボランティア活動は地域での活動です。地域の方々と一緒にお弁当等を配布してコミュニケーションをとります。

◆富山マラソン2021

このボランティア活動は1年に1回行われます。

私が担当したのはランナーのゴール後に一人一人タオルを手渡しして配布する役割です。



豊田こども食堂



富山マラソン 2021

学んだこと・成果

私はボランティアに参加して沢山のことを学び、成長することができました。その中で特に大きかった成長は周りを見て物事を判断する力です。地域の方々や他の学生・先生とコミュニケーションを取りながら作業を進めていくことで自分の事ばかり考えず、周りをよく見るきっかけとなりました。この力を得たこともあり、地域の方々から「ありがとう」の声をたくさんいただくことができたため、モチベーションに繋がりました。

提案・後輩へアドバイス

- ◆悩んだらとりあえず参加する。
 第一歩を踏み出すことがとても大切だと思います。
- ◆目標を持って参加する。
 何となく参加しては自分の力にならないと思うので、小さい目標でも作ったらいいと思います。
- ◆Web ボランティア手帳を活用する。
 トミタン専用のネットワークシステムです。
 先輩たちの参加後のレポートや様々な分野のボランティア等が記載されています。随時見ていくことがいいと思います。



今後に向けて

私の2年次のボランティア目標は様々な分野のものに参加することです。1年次は沢山の数を参加しましたが、その大半に共通していることは同じボランティアに継続して参加している点です。継続することは大切だと思いますが、新たな学びを新たなボランティアで得ることも大切だと思います。そのため、2年次はどのような分野のボランティアに参加するかは決めかねていますが、両立して参加していきたいと思っています。



キャンパス・グリーン・ボランティア

講評

ボランティアをやってみたくて多くの方が思っているけれども、考えているだけの状態から実際に行動に移すには、壁を一つ越えないといけないと思います。でも金山さんはその壁を短大に入って越えることができました。金山さんを突き動かしたのは、さらに成長したいという思いからだったと思います。ボランティア活動を通じて、周りを見て物事を判断することを学んだということ。これは大きな成長です。ぜひこれからも、様々なボランティアに挑戦して、成長につなげていってほしいと思います。

(経営情報学科 講師 山西 宏明)

活動目的・背景

私が富山短期大学でボランティアに参加しようと思ったきっかけは、中学時代と高校時代のボランティア活動を通して、人と関わることの素晴らしさを学んだからです。高校時代に、老人ホームへの合唱訪問を行い、たくさんの方の笑顔を見て、人を楽しませること、人の役に立つことの素晴らしさを知ることが出来ました。その経験からボランティア活動に積極的に参加したいと考えるようになりました。入学時に Web ボランティア手帳というのを知り、興味を持ちました。

活動実績・活動内容

私は今年4つのボランティアに参加しました。1つ目はマリエ献血ルームのボランティアです。このボランティアでは受付、粗品渡しなどを経験させていただき、コミュニケーション力を高めると共に、献血の素晴らしさを学ぶことが出来ました。2つ目はスペシャルオリンピックス日本・富山の卓球のボランティアです。私自身、幼いころから卓球をしていて、コーチを任せていただきました。障がい者の方に教えたことが今までなかったのでとても不安でしたが、皆さんが優しく接してくださったのでとても楽しい活動になりました。3つ目は生理の貧困に関するボランティアです。いろいろな理由で生理用品が買えない人や、LGBTQ（性的マイノリティ）などについてたくさん話し合いをし、ポスターを制作したり、生理用品を提供したりしました。このような問題に今まで気づけなかったのがこのボランティアを通して、自分がこの問題を知り、問題解決に携わることが出来て嬉しかったです。4つ目は、キャンパス・グリーン・ボランティアです。このボランティアでは、主に昼休み、放課後に学内の花壇の草むしりをしました。草をむしるだけではなく、花に水をあげることもしました。花が好きな私にとってはとてもやりがいのあるボランティアでした。



富山赤十字血液センター マリエ献血ルーム



短大卓球サークルにも所属
特技を活かしてボランティアに参加

学んだこと・成果

私は今年、富山短期大学でのボランティアを終えて、初めての経験が多かったですが、とても楽しい経験ばかりでした。ボランティアはたくさんの人と関わることが出来て、人の役に立つこと、人とたくさん話すことの素晴らしさを改めて感じました。しかし、大変なこともありました。特にスペシャルオリンピックス日本・富山の卓球のボランティアでは、コーチとして障がい者の方を教えていたのですが、障がい者の方とコミュニケーションをとるのが難しかったです。その課題を解決するために、ゆっくりと話を聞いたり、相手の話を尊重して聞いたりするように心がけました。そうすることによって楽しく活動することが出来ました。その他のボランティアでもたくさんの課題点を見つけ、解決するにはどうしたら良いか考えました。その経験が今後必ず役に立つと思います。そしてもっと活かしていきたいと思います。

提案・後輩へアドバイス

富山短期大学に入学したら、たくさんの友達、先生と出会いとても楽しい学校生活が待っています。その学校生活の中に是非、ボランティアを取り入れてほしいと思います。ボランティアをすると必ず世界が広がります。たくさんの人と関わる楽しさを知ることができます。今まで知らなかった社会問題に気づくことが出来ます。ボランティアに魅力を感じていない人でも、是非一度、富山短期大学の Web ボランティア手帳を開いてみてください！！

今後に向けて

2022 年も今まで以上にボランティアに参加したいです。2021 年に参加したボランティアへも続けて参加し、さらに新しいボランティアにも挑戦したいです。今年はヤングケアラーの問題について真剣に考えたいと思っています。高齢化が進んでいる今、高齢者だけではなく、若者の問題についても考えるべきだと思っています。ヤングケアラーについて知ってもらうためのポスターを制作したり、たくさんの学生と情報を共有しあったりする活動をしたいと考えています。

講 評

中学からボランティア活動を継続している水口さんは、短大でもすでに4つの異なるボランティアを経験されました。楽しいことばかりではなく、苦勞したこともあったようですが、課題の解決方法を考えることがさらに成長につながると述べています。ボランティアは、人の役に立つだけでなく、水口さんの言葉を借りると「世界が広がる」「人と関わる楽しさを知ることができる」「社会問題に気づく」ことができます。つまり自分の成長につながります。今後もヤングケアラーに関わるボランティアについて考えたいとのこと。水口さんの世界がさらに広がっていくことが期待できそうです。（経営情報学科 講師 山西 宏明）

活動目的・背景

私たちは「運動と健康」で介護予防の運動プログラムについて勉強しました。講義で学んだことを生かし、ファボーレ富山で行われる「介護の日フェスティバル」に向けてチームを組み、介護予防のプログラムを楽しんで行えるように試行錯誤を繰り返し、10分間のプログラムを作成しました。イベント当日は10分間の中でリズム体操、免疫力UP! 筋トレ体操を会場の方々と共に行いました。

活動実績・活動内容

- ・2021（令和3）10月25日 「運動と健康」授業内で運動プログラムの発表、介護の日フェスティバルに参加するチームの選抜
- ・2021（令和3）10月26日 体操プログラムの作成
- ・2021（令和3）10月27日、28日 自主練習
- ・2021（令和3）10月29日 通し練習、ビデオを撮影し動きの確認
- ・2021（令和3）11月1日 「運動と健康」授業内でクラスに発表、会場で配布するチラシ、マスクピアスを作成
- ・2021（令和3）11月2日 通し練習
- ・2021（令和3）11月3日 「介護の日フェスティバル」本番 チラシとマスクピアス配布、太陽の広場にて体操

学んだこと・成果

大きな会場でのイベントはクラス内と違い、幅広い年齢層の方々全員に楽しんでもらえるプログラムを作成する必要がありました。そのため、リズム体操で使用する曲は知名度の高い「崖の上のポニョ」を選曲し、その場で一緒に体操に参加できるように動きやすい声かけを考えることや、手や体を大きく動かして分かりやすいようにするなどの工夫をしました。本番までは毎日練習を欠かさず、常に本番をイメージして人に伝わる効果的な体操を目指しました。時には疲れが出てしまうこともありましたが、仲間と声を掛け合いながら乗り越えることができ、一人ではなくチームの仲間と協力して一つのことに挑むことの大切さを学びました。フェスティバル当日は体操のチラシとマスクピアスの配布を行いました。マスクピアスは喜んで受け取ってくださる方や、デザインをしっかりと見て選んでくださる方が多く好評でした。「ありがとう」の言葉から相手の嬉しい気持ちが伝わり、私たちも喜びを感じることができました。本番では会場の多くの方が一緒に体操をしてくださり、これまでの練習や準備が活きたのではないかと思います。さらに、イベント終了後に「楽しかった」、「介護や介護予防が明るくなった」という声を聞くことができ、やりがいと達成感を得ることができ、充実した気持ちになりました。

提案・後輩へアドバイス

学校外での活動は、授業で学んだことをさらに理解を深め、力を身につけることができ、様々な発見や学びがあります。さらに、人と関わることで自分には思いつかないような考えが見つかることや、励まし合って困難を乗り越えることができるので、その経験は将来の役に立つものとなるはずです。積極的に参加して学びを得てもらいたいです。体操などを行う際は、体操の効果を意識することも大切ですが、何より楽しんで行ってもらえるようにし、自分たちも楽しむことが大切だと思います。

今後に向けて

今年度は新型コロナウイルスの対策でボランティア活動に参加できる機会が少なかったですが、十分に感染対策を行い、今後も様々なボランティアに参加したいと考えています。ボランティアは自己研鑽にもなり、成長できるいい機会だと思います。この学びを忘れず、将来にも活かしていきたいです。



講 評

このボランティアチームはTomitan スマイル 8(エイト)として、今後も県内のイベントや学内行事に継続的に参加をし、広く介護の魅力を伝えていくミッションチームです。発表者の高柳さんはリズム体操のボイスリーダーとしてチームの練習と発表、会場での活動を牽引し、何よりも会場の県民の皆さまに介護の明るいイメージを伝えてくれました。今後はTomitan スマイル 8(エイト)が中心となり、クラス一丸となって富山の介護の未来を明るくしていくことと期待しております。

(健康福祉学科 准教授 小椋 一也)

2021 年度ボランティア活動報告集を読んで

健康福祉学科 教授 関 好博

「ボランティア活動は社会への出窓」という言葉があります。前職時代、高岡市社会福祉協議会でボランティアコーディネーターをしていたときに、研修で聞いた言葉です。今回の報告書を読んで、久しぶりにその言葉を思い出しています。

一読して、学生たちが活動をとおして社会的な問題にふれ、今日の社会の実情を知り、自分ができることは何かを考えた経過が見て取れました。「地域をキャンパスに」とのキャッチコピーを持つ本学の Web ボランティア手帳ですが、まさに地域からさまざまなことを学んでいる学生の様子が活写された報告書となっています。私が担当する健康福祉学科 1 年前期の必修科目「ボランティア演習」において、この報告書にあるボランティア活動で学んだことや後輩へのアドバイスなどを今後の授業でぜひ活用したいと思いました。

また、このコロナ禍において、学生たちは実にたくさんの、そして多様な活動に参加していることにも驚きと感動を受けました。ポプラプロジェクトは、富山県女性財団から私のもとに寄せられた話を学生部につないで実現した活動ですが、学生たちがそれこそ「我が事」として取り組んでくれたことに、ボランティア活動の神髄を見た気がしています。

前職の頃、「共同の企て」という言葉を教わった覚えがあります。それは、ボランティア活動は「援助者」と「援助の受け手」という関係ではなく、生活のしづらさの解消や夢の実現のための市民による「共同の企て」であるとの趣旨です。まさに、本学の学生の姿に重なります。

学生たちもきっと、社会のいろいろな問題に出会い、それを単に特定の誰かの問題とはせず、社会全体の問題として向き合うことで、「お金には換えがたい」やりがいを感じながら、自分らしく活動できた経験となったのではないのでしょうか。

特に報告書のなかでも、これから活動に参加してくる学生に向けたヒントがいくつも載っている点は、ぜひ注目していただけたらと思っています。「友達に誘われたから参加した」のでも十分に意味があるとの激励であったり、「課題を見つけ、解決するにはどうしたらいいか」を考える経験が必ず将来の役に立つとの助言であったり、活動先で出会う人にも話を積極的にすることで視野が開けるといった体験であったり、多くの学生に伝えたいことがたくさん書かれてありました。

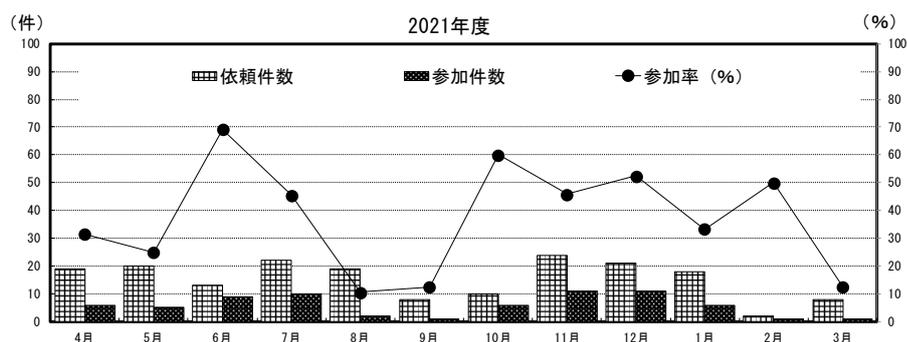
そして、「ありがとう」の言葉が交わされることが幸福感につながった経験から、他の人にもつないでいきたいとの動機づけになったことなど、授業では伝えきれない数々の指摘がとても印象に残りました。この報告書は本学の学びを特徴づける一つとして、たいへん意義深いものだとあらためて感じています。

報告書のなかにもありましたが、短大生活はあっという間に過ぎていきます。どう深めるかは、あなた次第です。できれば、最高の 2 年間で過ごしたいと思っているあなた。その手段に、ボランティア活動を加えてみませんか。

2021年度 学生のボランティア活動実績

1、2021年度月別依頼件数・参加件数

月 件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	参加件数 (%) 依頼件数
依頼件数	19	20	13	22	19	8	10	24	21	18	2	8	184	37.5
中止・自粛	0	1	0	0	4	3	0	0	0	3	1	2	14	
参加件数	6	5	9	10	2	1	6	11	11	6	1	1	69	
参加率 (%)	31.6	25.0	69.2	45.5	10.5	12.5	60.0	45.8	52.4	33.3	50.0	12.5		



2、学科別学生参加率

2021年4月～2022年3月

学科・学年		※ 全学生数(名)	参加 人数(名)	※ 参加率 (%)	学科 平均(%)	延人数 (名)	学生1人あたり 参加回数(回)
食物栄養	1年	88	32	36.4	26.5	44	1.4
	2年	78	13	16.7		20	1.5
専攻科 食物栄養専攻	1年	16	2	12.5	6.3	17	8.5
	2年	7	0	0.0		0	0.0
幼児教育	1年	80	69	86.3	63.0	166	2.4
	2年	93	37	39.8		74	2.0
経営情報	1年	106	45	42.5	22.0	96	2.1
	2年	123	2	1.6		2	1.0
健康福祉	1年	25	9	36.0	19.4	12	1.3
	2年	37	1	2.7		1	1.0
全学生数、 平均参加率		653	210	32.2	-	432	2.1

学年	参加率 (%)	学生1人あたり 参加回数(回)
1年	49.8	2.1
2年	15.7	1.8

※参加率は、一人が何回参加しても複数回数には数えていません。
※全学年数から休退学者数を除いています。

本学のコロナ対策活動指針にあわせて中止や制限をした活動があります。

編集後記

2021年夏、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。新型コロナウイルスの影響で1年延期になり、ほとんどの会場で無観客の開催となりましたが、それでも日本選手団は、過去最多のメダルを獲得、そして私たちにたくさんの感動を与えてくれました。練習がしにくい状況であったのに前を向いて取り組んだ選手たちに感服です。そして、富山短期大学ボランティア支援センターでは、はじめてボランティア活動等を普及・支援する助成金制度「+Oneともに」を実施しました。文通で子ども（保護者）とつながりを持つボランティアや、学内でできるボランティアなど、学生が主体となり、教員から助言を得て、コロナ禍でも工夫して企画・活動してくれました。2022年も前を向いて学生、地域の皆様と共に歩んでいきたいと思っています。

今後とも、皆様方からのより一層のご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、編集後記といたします。



2022年3月発行

富山短期大学 学生部 ボランティア支援センター

〒930-0193 富山市願海寺水口444

TEL 076-436-5146（代表）

076-436-5457（直通）

MAIL volunteer@toyama-c.ac.jp